



親子体操で元気に遊ぶ参加者（多目的ホールで）

児童の健全育成を推進する下妻市母親クラブは11月8日、やすらぎの里しもつま内のリフレこかいで「親子まつり」を開催しました。

多目的ホールでは、親子で一緒に体を動かす親子体操やベビーヨガが人気を集め、体験工房ではネイルアートやカラーセラピーでお母さんたちがリラックスしながら交流するなど楽しい時間を過ごしました。

同クラブ代表の酒寄三枝子さんは「一人孤独に子育てをしているお母さんや子どもとの接し方に悩むお母さんなどに、この親子まつりを通して近くに仲間がたくさんいることを感じてほしい。下妻母親クラブは現在40組の親子で交流しているので、気軽に声をかけてほしい」と、子育ての楽しさや難しさを皆で分かち合う大切さを話してくれました。



幻想的なイルミネーションの光に集まる人たち

蚕飼地区まちづくり推進委員が主催するイミネーション点灯式が11月23日、やすらぎの里しもつまで行われました。

今回は宗道小学校の6年生が考案した「雪だるまとツリー」のパネルや、高さ4メートルの「フェニックス」など新たに制作された力作のイルミネーションの光が冬の公園を彩ります。

メインポールの装飾を担当した40代の女性は「電飾を等間隔で作るところが難しかった。きれいに仕上がったので、たくさんの人に見てもらいたい」と話してくれました。今回のイルミネーションは、平成27年1月下旬まで夜間点灯されます。

子育ては楽しい親子のふれあい

下妻母親クラブ「親子まつり」

幻想的なイルミネーション点灯

蚕飼地区まちづくり推進委員会「地域交流イベント」

千代川中学校3年生80人が10月31日、視覚障害者がプレーする「ブラインドサッカー」の体験授業を通じて、障害者への理解や思いやりの大切さを学びました。

ブラインドサッカーは、パラリンピックの公式種目の一つで、視覚に障害のある選手がプレーできるように考案されたサッカーです。金属の粒の入ったボールとアイマスクを着用してプレーすることから、健常者も一緒になってサッカーを楽しむことができます。

今回の体験授業は、日本ブラインドサッカー協会が「スポ育」と名付けた事業の一環で、内田佳選手らが講師を務めました。「ブラインドサッカーの体験を通して、生徒たちが何かに気付くきっかけになればうれしい」と、アイマスクを着用しての授業が始まりました。

目が見えない状態の生徒たちは、パートナーの掛け声やボールの音を頼りに行動することに始めは不安な様子でしたが、互いにどうすれば相手に伝わるかを考えながら行動していくうちに徐々にプレーが安定してきました。

最後に、班対抗でボールをマーカーコーンに当てた回数を競い、楽しみながらも目が見えないことの大変さを身を持って感じていました。

倉持葉々さんは「今までは障害者の方を見ても『自分は関係ない』という思いがどこかにあった。今回の体験から、障害者の方が困っていたら自分から進んで声をかけてあげたいと思えるようになった」と話してくれました。



見えない状態でボールを扱う生徒たち（千代川中学校体育館で）

音と掛け声を頼りに心つながる

千代川中学校「ブラインドサッカー体験授業」



会場を魅了したオカリナ演奏（千代川公民館で）

「平成26年度下妻市文化祭」が10月26日から11月24日まで、市民文化会館や下妻公民館、千代川公民館などを会場に、芸術に親しむ市民の多彩な作品展示やステージ発表が行われ、訪れた多くの市民が芸術の秋を楽しみました。

「文化の日」の11月3日、千代川公民館ホールでのステージ発表会には、10団体約250人が出演し、日頃の成果を披露。オープニングで宗道小学校の児童がエネルギーに合奏した後、フラダンスやオカリナ演奏、合唱など多彩なプログラムが次々と登場しました。来場者は「見応えのある発表ばかり」とステージ鑑賞を楽しんでいました。

多彩な芸術の秋楽しんで

平成26年度下妻市文化祭



表彰状を手に受賞を喜ぶ野村さん親子

11月8日の「いい歯の日」に、平成26年度 親子のよい歯のコンクール表彰式が大阪国際交流センターで行われ、市内鯨の野村亜紀子さん・大雅くん親子が「厚生労働大臣賞」を受賞しました。

この賞は、平成25年度に3歳児歯科健康診査を受診した977,607組の幼児とその親のうち、各都道府県の審査で1位となった親子から全国で6組が優秀者として選出されたものです。

「歯磨きは朝晩し、フロスもやっています。3カ月に一度は歯医者で歯のクリーニングなどをしてもらいます」と歯科衛生士の資格を持つ野村さん。「子どもにも飲み物はなるべく無糖のもので、おやつはスルメなど、固いものを与えていた。夜は寝てしまっても歯磨きは必ずしてあげていた。職業柄、自分では当たり前のことをしてきたのに、とても素晴らしい賞をいただき驚いています」と笑顔で話してくれました。

歯みがき欠かさず親子でよい歯

親子のよい歯のコンクール厚生労働大臣賞受賞



騰波ノ江小学校体育館で10月28日、文化庁主催の「文化芸術による子供の育成事業」として、ザ・カレッジ・オペラハウス管弦楽団のオーケストラ公演が行われました。同校の児童や保護者など約280人は、プロのオーケストラ演奏を聴くのをはじめ、オーケストラの華やかな伴奏での校歌合唱や児童の指揮者体験など、一流の音楽にふれる機会となりました。

この事業は、子どもたちに一流の文化芸術団体や芸術家による質の高いさまざまな文化芸術を鑑賞・体験する機会を提供することにより、将来の芸術家の育成や国民の芸術鑑賞能力の向上につなげることを目的としています。「本物のオーケストラの指揮者なんて、なかなか経験できないことだからやってみたかった」という吉川智明さん（5年）は「演奏するみんなが僕に注目するので緊張した。強弱をつけて指揮してみたけど、僕に向かってくる音が大きくて迫力があつた」と興奮気味に話してくれました。



堂々とオーケストラの指揮を執る吉川さん（中央・指揮者）

一流の文化芸術にふれる

騰波ノ江小学校でオーケストラ公演

有料広告欄

有料広告欄